

令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 陽風会

社会福祉法人陽風会 事業報告

1. 法人理念

当法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重し、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援します。

また、社会福祉事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明化を図り、もって地域福祉の推進に努めることとします。

2. 重点項目

2019 年末より感染拡大している新型コロナウイルスについて、継続して質の高い高齢者福祉サービスを提供するため、協力医療機関との連携をより強化し、医師・看護師等の助言・指導を仰ぎ、また情報収集に努め、感染予防・感染拡大防止対策を行いました。

沖縄県が取組んでいる介護施設職員 PCR 検査に加え、協力医療機関の協力の下、法人でも定期的に PCR 検査を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めました。施設高齢者は基礎疾患により重症化するリスクが高いため、環境整備・必要物品の確保・職員教育・ご家族様等への協力依頼に努め、早期対応・長期的な対策を継続しています。

3. 取組と成果

(1) 職員及び施設利用者への PCR 検査の実施（新型コロナウイルス感染対策）

高齢者の重症化リスクを考慮し、感染拡大時期でも定期的な PCR 検査を行い、事業活動を継続出来るよう、協力医療機関及び協力検査機関の協力の下、入居施設だけでなく、老人福祉センター及び老人憩いの家の職員、利用者様への PCR 検査を行いました。

(2) 人事及び経理ソフトサーバー導入

これまで人事及び経理部門ではソフト及びサーバーを借用しておりましたが、令和3年12月に法人管理のサーバーを取得し、人事及び経理業務を継続しております。

4. 評議員会

- 令和3年6月23日（水）
- ①計算書類の承認について
 - ②社会福祉充実計画の終了の件の承認について
 - ③理事及び監事の選定について

5. 理事会

- 令和3年5月14日（金）
- ①施設長の交代について
- 令和3年6月8日（火）
- ①事業報告の承認について
 - ②計算書類の承認について

- ③社会福祉充実計画の終了の承認について
- ④評議員選任・解任委員会の委員の選定について
- ⑤評議員会への理事及び監事の推薦について
- ⑥評議員選任・解任委員会への評議員の推薦について
- ⑦定時評議員会の開催の承認及び日程、議案等の承認について
- ⑧有料老人ホーム星の館の家賃の改定についての承認について

令和3年6月23日（水）

- ①理事長の互選について

令和4年3月23日（水）

- ①補正予算について
- ②令和4年度事業計画について
- ③令和4年度予算について
- ④就業規則の改定について
- ⑤育児介護休業規定の改定について
- ⑥福祉大臣・給与大臣のサーバー再構築について

6. 監事監査

令和3年5月31日（月）

- 理事会への報告：令和3年6月8日
- 評議員会への報告：令和3年6月23日
- 法人所轄庁への報告：令和3年6月30日

7. 評議員選任解任委員会

令和3年6月15日（火）

- ①評議員の選定について

《法人の概要》

平成18年 3月 社会福祉法人陽風会、那覇市牧志3丁目8番10号に開設

《事業の概要》

- 平成19年 4月 経費老人ホーム「ケアハウス常夏の島」を開設、運営する
- 平成20年 9月 小規模多機能型ホーム牧志を開設、運営する
- 平成21年 4月 那覇市末吉老人福祉センターの指定管理を受託、運営する
- 那覇市壺川老人福祉センターの指定管理を受託、運営する
- 那覇市辻老人憩の家の指定管理を受託、運営する
- 平成29年 6月 有料老人ホーム星の館を開設、運営する
- 平成30年 2月 特別養護老人ホーム前島を開設、運営する（指定は1月）
- 平成30年 4月 那覇市地域包括支援センター新都心 受託

ケアハウス 常夏の島

利用者 定員 50名

年間稼働率 92.28% (目標稼働率 95%)

平均介護度 2.93

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	51	50	50	50	52	51	50	50	51	50	51	51
入院者のべ日数	81	34	53	40	50	88	72	50	45	103	101	137
のべ利用日数	1392	1464	1437	1495	1472	1412	1436	1395	1480	1395	1235	1360
稼働率 (%)	92.8	94.5	95.8	96.5	95	94.1	92.6	93	95.5	90	88.2	87.7
入所	1	2	1	1	2	1	0	3	2	0	3	2
退所	3	1	1	0	2	1	3	1	1	2	2	2

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	51	50	50	50	52	51	50	50	51	50	51	51
要支援1												
要支援2												
要介護1	6	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
要介護2	12	15	15	15	15	14	13	12	11	11	11	13
要介護3	19	19	20	20	22	21	22	22	25	24	24	23
要介護4	8	9	9	9	9	9	8	9	8	8	9	8
要介護5	6	3	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4
申請中												
平均介護度	2.92	2.84	2.88	2.88	2.88	2.94	2.94	2.98	2.98	2.98	3	2.94

2. 施設運営状況

- (1) 稼働率について、年度初めの4月から1月まで90%台、2月・3月は80%台と低く、また目標達成できた月が前年度と変わりなかった。入院日数が長期間となった利用者が多く、空床期間が1か月以上となる状況が発生したこと事や新型コロナウイルス感染対策の為、新規案内の調整・入所に時間がかかってしまった事が原因となり、年間目標未達となった。また、入居者様の身体機能、認知レベル等日常生活していく中でのアセスメントを強化し、見極めを慎重に行い入居者様、家族様との連絡を密に行い区分変更について提案することで、必要に応じ正確な区分変更を行うことができ前年度より平均介護度が0.06上がった。

- (2) 感染症対策に力を入れ、積極的に内部研修や勉強会等を実施し、感染症予防を強化、安心安全なサービスの提供に努めた。結果、新型コロナウイルス感染症で、クラスター発生はゼロに抑えることができた。
- (3) 人材育成について、新型コロナウイルス感染予防の為、外部研修への参加や内部研修等も制限されていたが、日々の業務（申し送りや勉強会）や資料を配布し、レポートを提出してもらうなど工夫し、職員の知識及び認識の向上に努めた。
- (4) 施設設備について、老朽化した設備は環境整備の観点より、優先順位をつけ順次修理・入替等の対応を行った。

3. 利用者支援状況

- (1) 新型コロナウイルス感染対策の為、外部からボランティア等の受け入れが出来なかったが、密にならない様、少人数のグループに分け、レクリエーションやイベントを行った。また、リハビリとしてのレクリエーション活動を取り入れ、多職種連携し入居者様の身体機能向上に取り組むことが出来た。
- (2) 個別ケアを重視し、入居者様個々に、居室担当責任者を設置し、入居者様個人とのコミュニケーションを密に、また他職種の視点から入居者様のニーズにあった支援を心がけ、サービス提供を行った。
- (3) 新型コロナウイルス感染予防の為、ご家族様も参加していただくイベントや面会等が制限されたが、入居者様や家族様からの要望や意見を取入れ、窓越しでの面会やお電話での連絡などを行い、入居者様や家族様の満足度の向上に努めた。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	おやつ会	10月	運動会・おやつ会（ヒラヤーチー）
5月	父の日・母の日会	11月	誕生会（10・11・12月生）
6月	誕生会（4・5・6月生）	12月	クリスマス会・忘年会
7月	七夕夏まつり	1月	新年会・おやつ会
8月	誕生会（7・8・9月生）	2月	節分・誕生会（1・2・3月生）
9月	敬老会	3月	ひな祭り

5. 職員研修

実施月	研修内容等
4月	倫理・法令遵守・接遇について
5月	認知症について
6月	感染症について（基礎知識、対策）

7月	急変時について
8月	事故等緊急時対応についてリスクマネジメント・拘束
9月	権利擁護、高齢者虐待、身体拘束について
10月	認知症及び認知症ケアについて 褥瘡について
11月	プライバシー保護について
12月	感染症について(基礎知識、インフルエンザ)
1月	誤嚥について 口腔ケアについて
2月	身体機能の維持・支援方法について
3月	褥瘡・ポジショニング・体位交換について

実践報告

1) 重点目標

実践報告 (4 できた 3 まあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった)

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	人員配置基準に準じた 人材確保。	環境整備の観点より優先順位 をつけながら順次実施できた。 長期的な視野で欠員状況管理 を行い早期に採用活動に繋げ ていく。	3
		②	職業倫理や法令遵守の 徹底・教育。	コロナ禍で会合等禁止の為、職 業倫理・法令遵守(コンプライ アンス)資料を配布し「企業論 理の3階層」を学んだ。	3
		③	緊急時や災害時の対応 強化、マニュアルの見 直し。	適正な避難ルートの確保や夜 間想定(火災)の訓練を行った。 又、緊急マニュアルを全職員で 再度確認し、スムーズに緊急搬 送を行うために、緊急時の基本 的な流れを確認する事が出来 た。	3

		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い。	コロナ禍で会合等禁止の為、資料配布にて個々で学んでもらい、管理者・主任より日々の業務にて指導を行う事で、個人情報保護について意識を高め取り組んでいる。	3
		⑤	自己評価・点検の実施による改善。	契約更新等の面談で主体的に取り組む目標を設定し、概ね目標達成できている。	3
		⑥	連携確保による運営の安定。	環境整備の観点より優先順位をつけながら順次実施した。	3
2	サービスの質の維持・向上	設備・物品	定期清掃等による衛生維持、管理による必要物品の節約。	備品等の管理をしやすいするためにリスト化し、設備や備品を明確にする事ができた。	3
			利用者様の安全・快適の為、保守点検等の強化。	施設の環境の見直し、入居者様の居室の環境・睡眠状況を多職種で共有し入居者様が安心して快適な生活が送れるよう環境整備を行った。 又、自主点検表を活用し、整備に異常がでる前に対策を取った。	4
		利用者主体の支援	利用者様とのコミュニケーションを多くし、要望や意見を具体的にケアに取り入れる。	コロナ禍で会合等禁止の為、資料配布にて個々で、日々の入居者様の生活の中で、常に入居者様の心に目・耳を傾けケアが出来るよう学び実践している。	3
			PDCA サイクルによる継続的な改善と支援の取り組み強化。	入居者様の食事量の低下がみられた場合や、褥瘡が発生しやすい入居者様などに対し、多職種で情報共有・連携を強化し、PDCAサイクルを繰り返す	3

			事により問題の解決・軽減する事が出来てきている。	
		必要時での適宜の丁寧な説明にて、同意によるケア支援の徹底。	専門用語、外国語の使用は極力避け、入居者様・家族様に合わせた説明を心掛け、同意を得ることが出来た。	4
	余暇活動	コロナ禍による外部との接触機会の低下があるが、楽しみや生きがいとなるレクリエーションの提案と提供。	コロナ禍でのレクリエーションでは、大きい声を出したり、道具を共有する事を避けソーシャルディスタンスを保ち感染対策強化を行いながら、体を動かす体操などを行った。	3
		マンネリ化解消のための聞き取りや委員会での取り組みによる行事運営。	ネットを活用してレクリエーションのアイデアを蓄積し、実践して行く事で、「楽しかった」や「盛り上がらない」など、入居者様の意見を聞き出す事や、参加率を把握する事ができた。行事の際には、「楽しかった」との入居者様の声が多かった。	3
		家族との継続的な関りや過ごし方の工夫や提案。	施設相談員・介護支援専門員を中心に、入居者様個々の現状の報告を家族様へ行う事で、家族様と関わる機会を増やし、いつでも相談が出来る環境作りに努めた。	3
	人材育成について	新規採用職員への教育方法の確立・マニュアルの見直し作成。	業務指導の順序や割り振りなどを再度確認し、早く仕事を覚えてもらおうと工夫しマニュアルの見直しを行った。	3

		<p>コロナウイルス等による感染症対策についての知識や技術の獲得により、安全に安心して働ける環境作り。</p>	<p>コロナ禍で会合等禁止の為、資料配布にて個々で、学んでもらうなど、日々業務でコロナウイルス感染対策に関する情報共有を強化し安全で安心な環境作りを行った。</p>	3	
		<p>オンライン研修の活用等により、積極的な学習に取り組める環境の提供。</p>	<p>全体でのオンライン研修は行っていないが、個々でネットワークを活用し、感染対策の強化や・褥瘡予防・ポジショニングなど学習し、業務に取り入れた。</p>	3	
		<p>定期での職員面談による問題点の早期解決や目標設定による意欲の向上。</p>	<p>定期的な面談により、問題の早期解決、仕事上での悩み・今後の目標立てる事が出来た。</p>	3	
3	利用者満足度の向上	①	<p>コロナ禍による外出の困難な状況であっても、メリハリや楽しみのあるプログラムの提案・提供。</p>	<p>ソーシャルディスタンスを保つなど感染対策強化し体を動かす体操などを行った。又、ネットを活用してレクリエーションのアイデアを蓄積し実践した。</p>	3
		②	<p>日々の関りを密に、コミュニケーションにより利用者様の意見・意向の吸い上げを行い、委員会を活用し具体化、実現へ。</p>	<p>常に入居者様の心に目・耳を傾けケアが出来るよう学び、実践し、意見・意向の吸い上げに努めた。</p>	3

2) 個別目標

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	①	一人ひとりに寄り添ったコミュニケーションと個別支援につながる情報収集に努める	他職種間で活発な意見交換でき、個別支援に繋がられた事例が多くあった。	4

②	<p><u>入浴</u> ゆったりとした環境で入浴が行えるように、声掛けや環境整備に工夫を行い、安心・安全な状況を確保する</p>	<p>環境を整え、調整を行う事で、入居者様に安心して安全なリラックスができる状況を確保するように取り組んだ。</p>	3
	<p><u>排泄</u> 入居者様一人ひとりの心身状況に合わせて個別の対応。おむつ交換支援からトイレ誘導へ移行検討を多職種にて連携。</p>	<p>入居者様の日々の身体状況を職員間で情報共有し、工夫する事で個々の支援を継続する事ができた。</p>	3
	<p><u>食事</u> 毎食を楽しみにできる環境作り（BGM や会話等） 口腔機能支援の強化を図り、嚥下機能の維持に努める。</p>	<p>多職種連携し、食事時のBGMを日々変えたりすることで、「飽きない食事時間」を提供する事ができた。 又、入居者様の立場を尊重する事で、嚥下機能の維持等の支援強化を行った。</p>	3
	<p><u>移動</u> 安全で自由に移動できるよう、本人のADLに合った移動手段の検討・提案。 多職種連携による検討。</p>	<p>入居者様が、安全に移動出来るよう通路の安全強化に取り組んでいる。 又、自立度が高い入居者様へ過度な介助はせず、自立支援を行った。</p>	4
③	<p>コロナウイルス感染症の影響により、家族との面会頻度の低下、外出の機会減少により、認知機能の低下が起らないようにレクリエーションの充実化やコミュニケーションを密に取る事の支援に努め、生活にメリハリをつける。</p>	<p>レクリエーション時に密にならないように注意し、少人数でも楽しめ、入居者様が興味を持てるようなグッズなどを活用した。 又全職員にて、入居者様の心に、目・耳を傾け支援を行った。</p>	3
④	<p>家族との交流機会を確保できるよう、生活相談員や</p>	<p>入居者様と家族様が話せる機会をなるべく多く設</p>	

			介護支援専門員と協力し、日程を確保・調整する。また、家族も不安にならないように連絡を行うことで、連携を密にする。	け、入居者様の施設での生活の現状報告など、御家族様に伝わるよう対応した。	3
		⑤	オンラインの活用等にて内部・外部研修に積極的に参加し、知識・技術の向上に努める。	個々でネットワークを活用し、感染対策の強化・褥瘡予防・ポジショニングなど学習し、業務に取り入れた。	2
2	看護	①	かかりつけ医や訪問診療医との連携を密に行い、入居者の健康維持及び日々の変化への早期発見に努める。	入居者様の健康管理を的確に行うため、日々の体調を把握し訪問医や、かかりつけの病院との連携を行い、スムーズな対応を取る事が出来た。	3
		②	多職種との連携にて、入居者・家族の意向に添った医療の提供に努める	面会制限があったため、ご家族様からの要望等を十分に傾聴する事が出来なかった。 職員間の情報共有を強化し、異常の発見に努める事が出来た。	3
		③	体温、脈拍、血圧測定を定期的に行い、必要に応じSpO ₂ （血中酸素濃度）測定、呼吸数、肺副雑音、腸蠕動音を含め、全身状態を観察していく。	日々のバイタル測定や観察をしっかり行い、必要時には、かかりつけ医師や病院へ繋ぐことができた。	3
		④	看護の知識を活かし、他職種への助言・指導を行う。	看護や介護に関する本や疾患等の資料を用い、繰り返し他職種へ指導を行った。 職員のレベルに合わせた指導を心掛けた。	3

3	機能訓練	①	<p>コロナウイルス感染症対策により、活動や意欲の低下が起こらないよう、身体を動かせる機会の工夫や本人への助言・指導を行う。また、介護職員・看護師の協力を仰ぎ、より活動的に過ごせるよう努める。</p>	<p>入居者様の機能に合わせた個別の機能訓練を行う事が出来た。</p>	3
		②	<p>個別性のある計画書の作成、本人・家族へのわかり易い説明に努める。</p>	<p>入居者様の個別機能訓練の満足度はその都度把握し、計画に反映できた。家族様には、対面での説明ができず、他職種との連携で郵送にて同意を得た。</p>	3
4	生活相談	①	<p>コロナウイルス感染症の影響により、本人と家族の面会に制限が生じているが、安全のための必要性について、理解・協力が得られるように、わかり易い説明に努める。また関わりが希薄にならないよう、適宜電話や感染対策に努めた面会の実施を継続する。</p>	<p>入居者様と家族様が話せる機会をなるべく多く設け、入居者様の施設での生活の現状報告など、家族様に伝わるよう対応した。</p>	3
		②	<p>面会が行えない環境では、本人・家族が不安にならないように日頃より連携を密にし、状況報告や連絡をこまめに実施する。</p>	<p>入居者様の居室を訪問し、入居者様の話を傾聴し落ち着くよう支援を行った。家族様へは、入居者様ご本人様の状況等をこまめにお伝えした。</p>	3
		③	<p>感染対策中により、通常よりも受診調整等に配慮が必要であるため、介護職員や看護師との連携を密にし、医療機関との連携を強化する。</p>	<p>多職種にて、入居者様の日々の状態観察を欠かさず、問題があればご家族様へ報告する事で、医療機関との連携が強化出来ている。</p>	4

		④	施設稼働率の向上を目指し、計画的な入退所支援に努める。	コロナウイルス感染症の影響もあり、スムーズな入所支援が行えなかった。	2
5	介護支援専門員	①	担当者会議を円滑に開催する為の仕組みを確立する。コロナウイルス感染症対策を踏まえ、電話やテレビ電話等を活用し、連携に努める。	リアルタイムでのテレビ電話やテレビ電話での参加は難しく、事前説明と同意確認、事後に説明と同意を頂いた。	2
		②	重度化防止・自立支援の視点を踏まえたプランニングをする。	重度化防止のため、過度な支援は行わないように他職種と情報共有しプランニングを行った。	4
		③	入居者の QOL 向上を目指し、多職種と連携して取り組む。	面会制限や外出制限があり入居者様の意向に沿う事が難しい面も多かった。また、QOL向上のため担当職員を設けたが意図が伝わらず機能していない。	2
		④	生活相談員と連携を図り、家族への支援を強化する。	入居者様や家族様の状況について密に情報共有が出来ず、金銭的負担の軽減なども考えていたが、直接ご家族様と相談する機会も少なく全体的にはできなかった。	2
6	栄養	① 供 個々に応じた食事の提供	多職種との連携を図り、病態や形態、嗜好を踏まえ、個々の状態に合った食事を提供する	入居者様個人の要望など聞き取りを行い、他職種からの食事の摂取状況の情報を確認し、個々にあった食事をお試し期間を設ける事で、エネルギー調整等を行い変更する事ができた。	3

	給食会議において、食事内容変更の検討・相談を行う	上記同様	3
② 質の向上	残食量チェックや検食実施、聞き取りによる献立の見直し	昼食時にラウンドを行い、食事の食べ易さなどの評価を行った。 又、献立の感想などを聞き取り、形状や不向きな食材など、より具体的な変更を行う事が出来た。 検食にて調味料の調整を行う事もできた。	4
	年 2 回の嗜好調査の実施と献立への反映	嗜好調査の個人要望は、生魚など衛生上、提供困難なメニューや偏る食材であるため、献立への反映にまでは至っていない。	3
	季節感のあるイベント食の実施	正月・敬老の日・旧盆・クリスマスその他にも洋風メニューや季節の味覚といったイベント食の提供を行う事が出来た。	3
	内外部のセミナー等への参加にて、栄養士としての専門性の向上に努める	県栄養士会からの講習会等をオンラインにて参加・視聴した。	4

		③ 安心安全な食事 の提供	衛生管理の実施と記録の徹底	現場リーダーが日々の記録チェックを行い、栄養士が毎月の記録を確認している。	3
			毎月一回の検便の実施（調理員）	毎月実施済み。	4
			委託業者の調理や盛り付け、衛生教育に関する内部指導の依頼	ノロウイルスなど時期に応じた感染症や、他事業所での事故やクレームなどの情報共有・教育が行われている。	4
		④ 入居者の栄養状態の維持、改善を図る	毎月の体重測定の記録を確認し、適正体重以下の入居者に対して原因を追究し、多職種連携し改善に努める	常日頃から、食事摂取状況・摂取量を確認し、入居者様の身体状況などに応じて食事形態の変更など、お試し期間を設け、多職種にて相談・検討する事が出来た。 入居者様への声掛けなどによる促しや介助なども行われている。	3
			定期受診時の結果に応じて、低栄養状態等の確認を行い、主治医・看護師への相談にて対応を検討する	毎月の体重と合わせて、血液検査によって食事摂取状況・摂取量、間食等の確認を行い、多職種にて相談・検討のうえエネルギー調整などを行えている。	3
		7	事務	①	窓口や電話の対応にて相手に不快な思いをさせないよう気持ちの良い対応を心掛ける

		②	施設の入り口であるロビーや事務所、トイレ等の清掃を徹底し、入居者・家族その他訪問者の方々が気持ちよく過ごせるように環境整備に努める。コロナウイルス感染症対策の実施を強化する。	ロビーには、極力荷物を置かないようにし、景観を損ねるものはきちんと片付ける事が出来た。	3
		③	個人情報の取り扱いには細心の注意をもって取り扱う。	入居者様の請求書、領収書を扱う際は、机の上に放置する事などなく、離席する際は、人目に触れぬよう必ず保管棚へ仕舞う事を意識し取り組めた。	4
		④	物品管理を行い、節約に努める。	物品の保管場所を変更する等、管理し易くする事で在庫数を把握し、無駄のない発注を行う事ができた。	4

(3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	毎月の事故報告・ヒヤハットを集計し、その報告書をもとに原因追究を行い、再発防止に全職員で取り組んでいる。	3
		②	安全対策に関する教育の計画と実施	コロナ禍で会合等禁止の為、安全対策に関する資料を配布し、レポートを提出する形で行った。	3
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	身体拘束をしない環境を継続する為、身体拘束に関する資料を職員へ配布し、レポートを提出する形で行った。	3

		②	入居者の行動制限廃止全般に関する事項の協議	入居者様へ対応の仕方や不穏にならないような環境づくりを職員にて共有し、全職員で注意し対応を行った。	3
3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の感染対策全般に関する事項の協議	感染マニュアルや手洗い後の洗浄効果を可視化する事で意識付けできた。又、新型コロナに関する情報共有を徹底し、感染対策を強化している。	3
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	感染対策に関する資料を配布し、レポートを提出する形で行った。	3
4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者の褥瘡予防全般に関する事項の協議	看護師を中心に、全職員にてケア方法の情報共有・早期発見が出来ている	3
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	褥瘡対策に関する資料を配布し、レポートを提出する形で行った。	3
5	ケース担当者会議 (必要時に開催)		入居者・ご家族の意向等を踏まえ、介護支援専門員が計画を立案し、多職種による検討を行う	家族様とは電話や文書にて対応を行い職種と情報共有を行っている。クレーム等なく、多職種と連携を取りケース対応できた。	3
6	入所判定会議 (申込毎に適宜開催)		入居者の紹介があった場合、速やかに入所の諸条件や身体の状態等に関して、関係者による情報の共有を図り、入所判定結果を速やかに紹介元に連絡する	多職種代表を集め入居者判定会議を実施。入所可能か否か、また優先順位について検討出来た身体の状態によっては受入れが難しい場合もあった。	3

7	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	解決策を入居者様や家族様へ伝えることでトラブルになることなく解決できた。	3
		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	取り入れられる意見等は参考にし、反映できるよう取り組んだ。	3
8	給食委員会 (年2回以上の開催)	①	年2回の嗜好調査にて、入居者のニーズを把握し改善に努める	コロナ禍であったが、聞取りした要望等は他職種と相談し、変更を行った。	3
		②	個別での対応等を、多職種にて意見交換し検討、実施	全職員で対応を考え検討・修正・評価し、観察ポイントの見直しができた。	3

特別養護老人ホーム 前島

利用者 定員 29名

年間稼働率 89.3% (目標稼働率 95%)

平均介護度 3.7

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	30	28	28	29	29	30	30	29	29	27	30	30
入院者のべ日数	68	31	68	59	82	87	96	87	23	34	45	52
のべ利用日数	770	825	795	824	802	734	774	733	852	818	740	789
稼働率 (%)	88.5	91.8	91.4	91.7	89.2	84.4	86.1	84.3	94.8	91	91.1	87.8
入所	4	2	1	3	0	3	2	4	2	0	4	3
退所	4	1	1	2	2	2	2	5	1	1	5	3

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	30	28	28	29	29	30	30	29	29	27	30	30
要支援1												
要支援2												
要介護1												
要介護2												
要介護3	11	9	9	10	11	11	10	13	14	13	13	12
要介護4	15	16	15	15	15	17	17	14	14	13	15	17
要介護5	3	3	4	4	3	2	3	2	1	1	2	1
申請中												
平均介護度	3.6	3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.6	3.6

2. 施設運営状況

- (1) 稼働率については、9月から11月にかけて体調不良による入院者が増加し、大幅な稼働率の低下となった。また感染症対策強化による入居受け入れの調整により、空床が続いた為目標未達となった。
- (2) 感染症対策強化を行いながら、認知症介護基礎研修・介護実務者研修などの外部研修に受講した。また、外部研修等に参加することが出来なかった職員は内部研修に積極的に参加した。その中で自己評価までを行い、各職員の改善点や目標などを明確化する事で業務に活かすことが出来た。
- (3) 過去に参加した研修等の資料をファイリングし、いつでも職員が閲覧できるよう設置し知識向上に努めた。

3. 利用者支援状況

- (1) 管理者を中心に日々の申し送りや業務ミーティングにて情報共有に努め多職種連携を行った。入居者個々のケアについて検討し、適切な介護や機能訓練等を実践できるよう努めた。
- (2) 各ユニットにて入居者様同士が交流を図れるように日々の食事からイベントやレクリエーション等、感染症対策強化を行い実施した。入居者満足度の向上に努めた。
- (3) 感染対策を強化している中、家族様の要望に応えられるよう、多職種連携で適宜検討をおこなった。また、家族様との交流は窓越しの面会を実施。電話等で入居者様の生活状況を伝えることが出来た。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	手工芸・おやつ会	10月	ハロウィン
5月	母の日	11月	運動会
6月	4・5・6月誕生会 父の日	12月	クリスマス忘年会 10・11・12月誕生会
7月	七夕夏祭り	1月	新年会
8月	7・8・9月誕生会	2月	バレンタイン節分
9月	敬老会	3月	ひな祭り 1・2・3月誕生会

5. 職員研修

実施月	研修内容
4月	接遇について
5月	感染対策
6月	夜間を想定しての非常災害訓練
7月	認知症及び認知症ケアについて
8月	褥瘡について
9月	権利擁護・虐待・身体拘束
10月	食中毒について
11月	倫理法令遵守
12月	消防訓練
1月	急変時について 応急救護
2月	オムツの特性や取り扱いについて
3月	プライバシー保護・個人情報保護について

実践報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	職員が欠員になった際には、採用担当者と相談し早期に採用活動に繋げ、基準の確保を行った。	3
		②	職業倫理や法令遵守	年間研修を実施し学ぶことが出来た。また、参加できなかった職員へは参考資料配布し、報告書の提出にて補習を行った。	3
		③	緊急時や災害時の対応強化、マニュアル見直し	非常災害・夜間を想定しての火災避難訓練を実施し、少人数を想定した実践訓練を行った。	3
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	年間研修を実施し学ぶことが出来た。また、参加できなかった職員へは参考資料配布し、報告書の提出にて補習を行った。 管理者のもと日々の業務にて指導を行うことで、個人情報保護について職員の意識を高める事が出来た。	4

		⑤	自己評価・点検の実施による改善	自己評価を行うことで施設としての方向性が明確となり目標を立てることが出来た。	3
		⑥	連携確保による運営の安定	各サービス事業所、協力医療機関とオンラインを活用することで上手く連携を図ることが出来た。	3
2	サービスの質の向上	設備・物品について	共有スペースの環境整備を行い、入居者様やご家族様がゆったりくつろげるよう、掲示や装飾をする。	共有スペースで、入居者様がくつろげるように、季節行事に合わせた装飾を行った。離床時間を多めに設け、共有スペースで過ごせるように工夫を行った。	3
			定期点検・保守点検の強化を行い、安全に生活できる環境を維持する	点検実施管理簿を作成し意識する事で点検の強化を行った。	3
			備品の管理等、記録管理し無駄を省き節約する	備品管理簿にて残数を把握し、無駄の無いように必要数の発注を行った。	4
			本人・家族の意見を取り入れながら、本人の能力を最大限に活用できる支援を検討し、わかり易い説明にて同意のもと実施する。	入居者様へ丁寧な説明をするように努め、残存機能を活用しながら出来る動作を取り入れた支援を行った。	4
			重度介護ケアについて知識向上を目指し、ユニットケアの特性を活かした支援を行う	業務ミーティング・勉強会の場にて、意見交換を行い改善案を出すことで重度介護ケアについての知識向上を行った。	3
			個別ケアを意識しつつ、小集団での快適な生活となる工夫や配慮を行う。	感染症対策強化を行い、各ユニットにて入居者様同士が交流を図りながら食事を召し上がれるように席の配置など工夫を行った。	3
			コロナ感染対策を強化した環境であっても、環境に応じた臨機応変な対応を多職種連携で適宜検討する。	感染対策を強化している中、家族様の要望に応えられるよう、多職種連携で適宜検討することが出来た。	3

		レクリエーションについて	<p>感染対策強化により、他者との交流機会減少があるが、施設内で行えるレクリエーションの充実化を図り、利用者の要望が実現できるように工夫や配慮を行う。</p>	<p>入居者様の要望を聞き取ることで、少人数でのレクリエーションを行うことが出来た。</p>	3
			<p>地域との交流やボランティアの活用が困難であるため、職員による企画等を工夫改善することで、より利用者との交流を持ち、一層関係性を深められるような支援に努める。</p>	<p>感染症対策強化で全入居者様揃ってのイベント企画・行事を実施出来なかったが、企画等を工夫改善することで各ユニットにて実施することが出来た。</p>	3
			<p>家族との交流も減少しているため、家族へも生活状況が伝わるように、レクリエーション実施の際は、写真や動画の撮影を行い、見える情報提供を工夫して対応する。</p>	<p>家族様との交流は窓越しの面会を実施。電話等で入居者様の生活状況を伝えることが出来た。</p>	3
		職員能力向上について	<p>介護職未経験への基本研修（入職時説明）内容確立、マニュアルの整備。</p>	<p>入職日から最低一ヶ月はベテラン介護職員と同フロアで説明・ケア指導を実施。又、未経験者へのための各種マニュアルを作成し提供を行った。</p>	4
			<p>意見交換や情報提供できるように、朝礼や会議の活用。記録媒体の整備</p>	<p>日々の申し送りで意見交換を行い、連絡ノート・療養日誌の記録を活用し情報共有を行った。</p>	4
			<p>オンライン等の活用にて、外部研修に積極的に参加する。</p>	<p>認知症介護基礎研修・介護実務者研修などの外部研修に職員が受講した。</p>	3
			<p>職員一人ひとりに個別研修評価を集計し、目標達成までの改善や助言・指導を行う。</p>	<p>勉強会報告書・個別目標・年間目標表を活用し実施、指導を行った。</p>	4
3	地域との連携	①	<p>コロナ禍もあり、地域ボランティアとの交流も休止状態だが、家族との面会は積極的に受け入れ、窓越しやスマートフォンでのリモート面会を実施</p>	<p>家族様の面会の希望日を予約制にすることで積極的に窓越し面会を行った。</p>	3

		②	直接的な地域交流が困難であっても、いつでも連絡・相談が可能な状態を確保し、適宜連携を図る。	運営推進会議は施設職員のみで実施。各、関係機関、運営委員メンバーには書面にて意見聴取、報告を行った。	3
4	利用者満足度の向上	①	利用者の意見を取り入れ、マナー化しないよう、季節感やメリハリを考えた企画を提案・実施	入居者様の要望を聞き取り季節に応じた行事企画を各ユニットにて行った。	3
		②	感染対策による外出自粛もあるため、施設内での活動を充実させる。季節行事意外に、日常のレクリエーションの充実化を図る。	施設内での活動を充実させる為に入居者様の要望を聞き取り、少人数でもレクリエーションが行えるよう内容の工夫を行った。	3

2) 個別目標

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	①	家族や外部との接点が減少している状況下において、施設での生活環境にて身近な介護職員がより密なコミュニケーションを図り、利用者に寄り添った支援を行う。	入居者様と日々のコミュニケーションを業務内にて意識して行うことで、趣味嗜好や要望等を聞き取ることが出来た。	3
		②	感染対策を強化し、ウイルスを持ち込まないように努める。	感染対策委員会にて、日常の業務からプライベートでの感染対策強化を周知して、意識して取り組むことが出来た。	4
		③	勉強会や研修にて知識・技術の向上を図り、共通認識にてより良い個別支援を目指す。	毎月テーマ別で勉強会を実施し、報告から目標設定・評価までの取り組みが出来た。	3
2	看護	①	施設担当医、協力医療機関、かかりつけ医との連携を密に、日々の健康観察に努める。	日々の体調情報を担当医師に報告・相談等、密に行い入居者様の健康維持に努めた。	4
		②	協力医療機関の感染対策委員会との連携にて、助言・指導の下、多職種連携にて感染対策の強化を継続。	日々の申し送りやミーティングなどで情報伝達し、多職種連携にて感染対策の強化をすることが出来た。	3
3	機能訓練	①	感染対策により、外出や外部とのコミュニケーションが減	入居者様の活動が低下しないよう運動指導時には、コミュニ	3

			少しているなか、活動の低下が起こらないように、定期的・計画的な運動指導を実施。	ケーションを積極的に行った。	
		②	本人とのコミュニケーションから、より個性性のある計画を検討。	運動指導以外にもコミュニケーションを充実させ入居者様の意向などの聞き取りを行った。	3
		③	日常生活動作でも訓練できるように機能訓練士より助言・指導にて多職種への発信。	日々の申し送りなどで他職種へ情報伝達し、業務内にて日常動作の指導助言を行なった。	4
		④	本人のリハビリ意欲向上のため、能力に応じたメニューの検討・提案。	施設内での運動を中心に検討を行った。感染症対策強化から外出にての歩行訓練など実施することが出来なかった。	2
4	生活相談	①	感染症対策強化により、通常の面会が困難である中、本人や家族が不安にならないように、臨機応変に対応。	入居者様、家族様の要望を聞き取りしながら窓越し面会を実施し、家族交流の場を提供することが出来た。	3
		②	家族へ本人の状況が伝わるよう、多職種連携にて情報収集を行い、報告・連絡・相談を実施。	多職種連携のもと、入居者様の状況を主に電話を手段として、家族様へ適宜伝えることが出来た。	4
		③	病院受診等に関して、感染症対策強化にて、担当医・施設看護師・本人・家族との相談のもと、適宜必要な調整を臨機応変に行う。	感染症対策強化の中、他職種や入居者様、家族様と相談・調整することで、必要な病院受診を行うことが出来た。	4
		④	多くの方に利用していただけるよう、ベットコントロールを強化。待機者への定期的な連絡。	多くの方に利用していただけるように、その都度必要な入退所の調整を行うことが出来た。	3
5	介護支援専門員	①	感染症対策強化の下、情報提供に漏れなく説明責任を果たす。通常の会議が行えない環境であっても、電話やテレビ電話の活用にて情報提供を行う。	その都度、家族様には電話や書面にて内容が伝わりやすいように心がけ情報提供を行った。	3

		②	施設担当医・施設看護師・協力医療機関・かかりつけ医等の医療連携を図り、情報収集・情報提供・共有・把握に努める。	日々の申し送り、業務ミーティング内にて多職種連携を図り、情報収集・共有を行った。	3
		③	外部・内部研修に積極的に参加し、より多くの知識を習得し、入居者・家族へ必要な情報を適切に提供できる。	研修へ参加し家族様、入居者様へ必要な情報を適切に伝えることが出来た。	3
		④	入居者・家族とのコミュニケーションを密にし、施設相談員との協力の下、感染対策強化中であっても、本人・家族が不安とならないように連絡を密にする。	多職種連携のもと、入居者様の状況を主に電話を手段として、家族様へ適宜伝えることが出来た。	4
6	栄養	①	入居者の状態変化に応じた食事の提供を行う。	毎日、食事の摂取状況等を確認。介護職員の食事介助を通じて摂取状況の変化が見られたら、多職種で検討を行い状態に応じた食事の提供を行った。	4
		②	定期的な嗜好調査や日々のコミュニケーションにて利用者や家族等の意見を傾聴し、出来る限り希望に沿った食事を提供できるように、給食委託会社と連携し、多職種との検討にて対応する。	入居者様との日々のコミュニケーションや食事介助で要望等の聞き取りを行い、給食委託会社と連携を行い希望に沿った食事を提供出来るように努めた。また、感染症対策強化を行いながら家族様からの差し入れも臨機応変に対応を行った。	3
		③	食堂の環境整備に工夫・配慮が出来るように提案・実施する。	感染症対策にて、入居者様の席の配置やテーブルの位置などの工夫を行った。	3
		④	季節感を感じてもらえるように、イベントや個人の誕生日等にて、コミュニケーションツールを活用するなどして工夫を行う。	入居者様と日々のコミュニケーションを通じて聞き取りを行い行事委員と連携を行い、イベントのおやつ等に季節感を感じてもらえるように工夫を行った。	3

		⑤	災害発生時の備蓄の整備をする（給食委託会社との連携）	給食委託会社と連携を行い在庫数や賞味期限等を管理し整備を行った。	4
7	事務	① 受付業務	生活相談員・介護支援相談員との連携を図り、利用者家族への丁寧な説明や情報提供に努める。	多職種連携のもと、入居者様の状況を主に電話を手段として、家族様へ適宜伝えることが出来た。	4
		② 労働環境整備	職員の健康管理：年一回の健康診断の実施（夜勤業務がある場合は年2回）	協力医療機関と連携を行い、健康診断を実施した。	4
			有給休暇の適正な取得	有給を年5回以上取得していない職員へ休暇取得の提案を行い取得へ繋げた。	4
			防災訓練の実施（年2回以上）	令和3年度は夜間想定も含めて2回実施。	4
			定期的な設備点検（防災・エレベーター等）	業者にて定期点検を実施。	4
		③ 備品管理	修理や購入の依頼検討等、メンテナンスを行い、備品の管理を行う。節約を意識する。	故障や不具合が生じた際は速やかに業者へ連絡し対応した。	3
			メンテナンス等は定期的で継続して行えるようチェックリスト等を活用して実施する	備品のチェックリストを作成し活用しながら実施することが出来た。	4
		④ 人事業務	適正な人員配置を維持（求人・採用等）	常に人員状況を把握し、長期的な視野での管理を行い採用活動に反映させた。	4
			働きやすい環境の整備（職員の育成、面談等）	業務上の課題や問題点・人間関係等を管理者へ報・連・相を努め必要な場合は、個人面談を行った。	3

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	ADLの評価・車いす種類検討から、事故分析、対策、継続の協議を行った。	3
		②	安全対策に関する教育の企画と実施	年間研修計画にて安全対策にかかわる研修を実施。	3
2	身体拘束廃止委員会 (月1回開催)	①	入居者の身体拘束廃止全般に関する事項の協議	身体拘束廃止の取り組みで、経過期間短くし検討することで解除まで行えた。	3
		②	入居者の行動制限廃止全般に関する事項の協議	入居者の制限をすることなく出来た。	4
3	感染対策委員会 (月1回開催)	①	入居者・職員の感染対策全般に関する事項の協議	毎月の会議において感染対策や協議を行った。	4
		②	感染対策に関する教育の企画と実施	年間研修計画にて、感染対策に対する研修を実施。感染対策委員のもと日々の業務の中にて指導することで、職員の意識改善を行うことが出来た。	4
4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者の褥瘡予防全般に関する事項の協議	会議の中で褥瘡に限らず、皮膚トラブル・処置等について情報共有し協議を行った。	3
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	年間研修にて知識向上、予防策を学び全職員と協議する場を設けた。	3
5	ケース担当者会議 (必要時に開催)	①	入居者様・ご家族の意向等を踏まえ、介護支援専門員が企画立案し、多職種による検討を行う	介護支援専門員を中心に多職種間で支援に対する共通認識を持ち、入居者様・家族様にご理解いただけるよう検討を行った。	3

6	入所判定会議 (申込毎に適宜開催)	①	入居者の申し込みがあった場合、速やかに入所の諸条件や身体の状態等に関して、関係者による情報の共有化を図り、入所判定結果を速やかに紹介元に連絡	申込みがあった場合、速やかに入所の諸条件や身体の状態等の確認を行うことが出来た。入所判定については、空床の見通しがついてからの開催となることがあった。	3
7	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	苦情に関する調査や解決策の検討を適宜行うことが出来た。	4
		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	入居者様から意見等を聞き取りした際には、苦情処理委員へ情報提供を行った。	3
8	給食委員会 (年2回以上の開催)	①	年2回嗜好調査を行い、入居者様の好みや嚥下状況に合わせた食事の提供が行えるように、献立の見直しや調理法の改善を検討・実施する	嗜好調査と食事介助時のコミュニケーションから得た好みや要望を給食委託業者へ報告・相談を行った。	3
		②	栄養管理・衛生管理	体重観察や食事摂取量を確認し、入居者様の要望等取り入れながら、多職種にて連携し形態変更などを行った。	3

有料老人ホーム 星の館

利用者 定員 97名

年間稼働率 73% (目標稼働率 100%)

平均介護度 4.14

1. サービス利用実績

(1) 月別利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用人数	96	92	93	96	94	97	91	91	92	85	84	92
入院者のべ日数	448	476	431	579	401	558	528	528	533	613	456	597
のべ利用日数	2374	2290	2307	2250	2343	2243	2016	2016	2130	2013	1822	2128
稼働率 (%)	81	76	79	74	77	77	69	69	70	66	67	70
入所	7	8	10	11	11	11	9	9	10	0	6	9
退所	12	9	8	11	12	12	9	9	7	7	1	7

(2) 利用者介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計人数	96	92	93	96	94	97	91	91	92	85	84	92
要支援1												
要支援2												
要介護1												
要介護2	4	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	3
要介護3	16	16	14	16	16	15	14	13	13	13	13	14
要介護4	44	40	43	45	43	45	41	41	42	37	36	42
要介護5	32	33	33	32	32	34	34	35	35	33	33	33
申請中												
平均介護度	4.08	4.11	4.15	4.1	4.1	4.13	4.17	4.19	4.19	4.18	4.19	4.14

2. 施設運営状況

- (1) 稼働率については、4月のみが80%台で10月、11月、1月、2月は60%台と大幅な低下となった。要因としては、新型コロナウイルス感染対策による入居受け入れの調整により空床が続いたため、また長期入院者の増加。
- (2) 日々、職員の検温、行動履歴の記録やアルコール消毒徹底などの新型コロナウイルス感染対策強化を行うことで、職員一人ひとりの意識付け及び質の向上を図った。また、ZOOMなどのオンラインを活用し、協力医療機関の感染対策本部から情報収集を行うことで感染対策を臨機応変に行った。

3. 利用者支援状況

- (1) デイサービス利用の入居者様については、関連事業所のデイサービスとの間で連絡帳を活用して、日々情報の共有化を図っている。また、訪問看護とは入居者様に対しての気づきを2回(朝・夕)の申し送り等で情報共有することで早期発見・早期対応することが出来ている。
- (2) 重度入居者様へのコミュニケーションには、表情や身振り手振りなどの非言語的コミュニケーションを活用した。
- (3) 職員での環境整備を実施することが出来た。感染症対策強化に努めることで、安心・安全な環境作りを行うことが出来た。
- (4) 新型コロナウイルス感染対策のため、窓越しでの面会を積極的に実施し、日常生活の様子や体

調の変化などを電話で細かくお伝えすることが出来た。

4. 行事・レクリエーション

	行事		行事
4月	誕生会	10月	誕生会
5月	誕生会	11月	誕生会
6月	誕生会	12月	誕生会
7月	誕生会	1月	誕生会
8月	誕生会	2月	誕生会
9月	誕生会	3月	誕生会

5. 職員研修

- (1) 職員の内部研修については、その都度事例を捉えて、意見交換の時間を設けている。また、参加出来なかった職員へは参考資料を配布し、報告書の提出にて補習を行った。
- (2) 内部研修で学んだことは、日々の業務内や申し送り等でも周知を行い職員同士で意識付けを行った。

	研修内容
4月	緊急搬送への対応について
5月	デイサービスとの連携について
6月	防火訓練（初期消火）について
7月	熱中症対策について
8月	防火訓練（蘇生・AED）
9月	多職種との業務連携について
10月	高齢者虐待防止研修・抑制・拘束
11月	感染症対策（ノロウイルス）について
12月	各種事故発生時における初動対応について
1月	苦情解決セミナー
2月	自衛消防について（災害時の訓練）
3月	接遇について

実績報告

1) 重点目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、環境整備。	各居室、共有スペースの定時換気、アルコール消毒など感染対策強化	3

				に努めることが出来た。	
		②	職業倫理や法令遵守。	ルールに従い安全・安心な運営を行っている。	3
		③	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い。	個人情報の保管には、鍵付きの棚で厳重に管理を行っている。また、秘密保持についてもミーティングなどで職員に対して周知を行っている。	4
		④	緊急時・災害時の対応強化、マニュアルの見直し。	年2回(2月・11月)防災訓練を実施。職員の入退職時には、緊急連絡先も随時更新を行った。	3
		⑤	自己評価・点検の実施による問題点の改善。	自己評価を行うことで目標が明確化となり具体的な取り組みとして実践することが出来た。	3
2	サービスの質の向上	設備・物品	感染症対策の強化を徹底。家族による居室清掃依頼ができない分、施設職員での環境整備の実施。定期点検や保守点検による安全で清潔な環境作り。	清掃チェックリストを作成し管理することで職員での環境整備を実施することが出来た。感染症対策強化に努めることで、安心・安全な環境作りを行うことが出来た。	3
			必要物品の管理・記録・節約。	必要物品を管理することで、在庫を残さないよう節約を行った。	3
		ケア内容について	接遇・マナー等の再教育化・徹底。	内部研修を行うことで再認識することが出来た。また、日々の業務内でも入居者様に対する接遇・マナーなどを職員同士で意識するよう努めた。	3
			業務内容の効率化及び見直しにより、個別ケアの実践。	ケアに対しての技術に個人差があるため介護主任の下、ケアに対しての技術指導を行うことでケアの見直しを行った。	3
			関連事業所(主にデイサービス)との連携と共通認識の強化。	関連事業所とは日々、申し送りノートを活用することで事業所間の連携を行うことが出来ている。	3
			訪問看護師との連携を強化し、日々の健康観察にて異常の早期発見・早期対応	入居者様に対しての気づきを2回(朝・夕)の申し送り等で情報共有することで早期発見・早期対応	3

			により重症化の予防に努める。	することが出来ている。	
		職員の能力向上について	内部研修の強化。職員間での共通認識の下にてケアを実践し、安定して同じ支援を提供できるよう意見交換や助言・指導を徹底する。 また、オンラインを活用した外部研修へも積極的に参加する。	感染症対策強化により内部研修は、最低人数で行った。また、参加出来なかった職員へは参考資料を配布し、報告書の提出にて補習を行った。	2
			申し送りや会議を活用し、危機管理体制を確立する。	申し送りや会議を活用することで危機管理に関する共通認識を職員間で持つことが出来た。	2
3	外部との連携	①	感染症対策強化により、外部との関りが希薄になりがちであるが、常に情報収集や地域の情勢に目を向け、臨機応変に対応する。	ZOOMなどのオンラインを活用し、協力医療機関の感染対策本部から情報収集を行うことで感染対策を臨機応変に対応することが出来た。	3
		②	感染症対策により家族との交流が通常通りに行えないため、本人・家族の不安軽減のため、施設からの連絡を密に行い、安心できるよう努める。	窓越しでの面会を積極的に実施し、日常生活の様子や体調の変化などを電話で細かくお伝えすることが出来た。	4
		③	協力医療機関や関連施設等、連携を図り、情報共有を行う。	ZOOMなどのオンラインを活用することで関連事業所や協力医療機関と情報共有、情報収集を行うことが出来た。	3
4	利用者満足度の向上	①	季節感の感じられる装飾やBGM等で、落ち着いて過ごせる環境整備。	季節を感じてもらえるよう食事時間にBGMを流すなどの工夫を行った。	3
		②	重度利用者様へのコミュニケーションの工夫と実践。	表情や身振り手振りなどの非言語的コミュニケーションを用いて重度利用者様へのコミュニケーションを行った。	4

2) 個別目標

1) 実践報告 (4 できた 3 まあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった)

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	介護	安全、安心な介護で入所者の満足度の向上を図る。	ケアに対し声掛けなど、一つ一つ丁寧に対応するよう心掛け実践した。	3
2	看護	医師との連携を図り入所者の健康増進を図る。	主治医と連携を行うことで早期発見、早期対応することが出来た。	4
3	生活相談員	入所者と家族、他事業所との連携がスムーズに行えるよう支援する。	入居者様、家族様や関連事業所とは連携が途切れないように連絡、対応を行うことが出来た。	3
4	事務	正確、迅速、丁寧な事務処理を努める。	正確、迅速、丁寧に情報が伝わるよう記録に残すことで、正確に情報共有することが出来た。	3

3) 会議・委員会

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	安全対策委員会 (月 1 回開催)	①	入居者・職員の安全対策全般に関する事項の協議	ヒヤリハット報告書をもとにリスクマネジメントを行い安全対策に対する意識を高めることが出来た。	3
		②	安全対策に関する教育の企画と実施	安全対策に対する知識等に個人差があるため、内部研修にて知識向上を行った。	3
2	身体拘束委員会 (月 1 回開催)	①	入居者の身体拘束廃止全般に関する事項の協議。	身体拘束は行わず、やむを得ない理由がある場合は委員会にて協議した上で検討を行った。	3
		②	入居者の行動制限廃止全般に関する事項の協議。	入居者様一人ひとりの危険認知度を把握することで行動制限することなく対応出来た。	3
3	感染対策委員会 (月 1 回開催)	①	入居者・職員の感染対策全般に関する事項の協議	感染症対策についての内部研修を行うことで職員の知識向上を図っている。	3

		②	感染対策に関する教育の企画と実施	感染対策に関するマニュアルや資料等を活用して周知を行い、万が一感染症が発生した場合にも対応が出来るようにしている。	3
4	褥瘡対策委員会 (月1回開催)	①	入居者の褥瘡予防全般に関する事項の協議	褥瘡予防に関する事項を全職種、関連事業所にも情報提供を行っている。ポジションや褥瘡部位の清潔保持に努めた。	3
		②	その他、褥瘡予防に関する事項の協議	褥瘡予防に関しては栄養状態等も含めて訪問看護師や主治医と連携を行い予防に努めている。	4
5	苦情処理委員会 (随時開催)	①	苦情に関する調査や解決策の検討を行う	特定の職員だけが意見や要望の聞き取り、対応しないよう全職員が対応出来るよう改善を行った。	3
		②	苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	意見等が寄せられた場合には記録を作成することで早期対応、解決することが出来た。	4
8	運営委員会			全職種が参加することで意見交換や情報の共通認識を持つことが出来た。	3

那覇市地域包括支援センター新都心

新都心地区

総人口 15,180人 (内) 65歳以上 2,104人

高齢化率 13.5%

1. 総評

地域に住まわれる65歳以上の高齢者の把握や支援を行い、介護予防・認知症予防周知活動を行った。今年度も、新型コロナウイルスにより外出自粛要請等が長期化する中、高齢者の多くが外出を控え活動量が低下し、他者との交流の機会も減ってしまっている状況であった。センターの活動において計画し

ていた事業が休止となる影響もあったが、感染対策を講じ介護予防の取り組みや高齢者の見守り、地域との連携等を創意工夫しながら実施した。コロナ禍での高齢者の課題の対策として、地域の方と協議しながら「新都心お散歩マップ」を作成するなどの成果を得られた。

2. 重点実施事項の取組と成果

(1) 介護予防把握事業

① 新型コロナウイルス感染防止のため、対面での訪問活動は積極的には行えてこなかったが、ポスティングによるセンターの案内や介護予防の取り組みを周知するなど対応。支援が必要な方には総合事業への促しや、自宅近くへのふれデイ、教室への誘導を行った。

② 総合事業の団体周知を企業や集会に参加するなどして、周知を行った。

(2) 介護予防普及啓発事業

新型コロナウイルスの影響で、計画していた介護予防教室の休止を余儀なくされた。介護予防に関する取り組みが思うように行えないか、地域の高齢者が自主的な介護予防活動に取り組めるよう介護予防の関する資料・パンフレットをご自宅へ投函し介護予防への取り組みの普及啓発に努めた。

(3) 地域介護予防活動支援事業

地域の健康サークルの続支援を行い、銘苅地区、天久地区にて健康サークル活動が継続されている。

(4) 見守りネットワーク事業

支援台帳に追加するが、特に支援が頻回訪問による支援の必要性はなく半年や1年に1回状況を確認している。支援台帳の整理を行い対象者の確認を行う必要がある。

(5) 地域ケア会議（包括開催）

① 日常生活圏域ケア会議（協議体）にて、コロナ禍で運動機会が減ってしまったことでの運動機会を得るきっかけとなるため、新都心お散歩マップを作成。地域住民への配布も行えた。

② 個別事例検討会議が少ないが、委託先が少なく包括内のプランナーとの個別事例検討会議を行っているが、プランナーとの検討会議は実績とならない為、回数が少ない。

(6) 包括的支援事業

ケアマネジャーの後方支援が、包括新都心単独では行えていない。委託先居宅の協力も必要なため、今後は実施できるように環境を整える。

(7) 認知症総合支援事業

認知症カフェについては新型コロナウイルス感染予防のため中止となる事が多く、年度3回の開催となった。少数開催の中でも参加者同士が交流し楽しめるプログラム工夫し、コロナ禍で閉塞感のある生活の中でも参加している間は笑顔で過ごせてもらうことができ心身のリフレッシュにつながる事ができた。また、認知症に関する多職種研修はではリモートを用いて研修・勉強会を開催することができた。

(8) 生活支援体制整備事業

高齢者が多く生活され多問題世帯が潜在する公営住宅の自治会と連携を図るよう心がけた。気になる高齢者についての相談を受け支援につながる、といった結果も得られた。また、高齢者の生活において地域にあったらいいなというサービスを個別事例からピックアップし把握に努めている。

(9) その他・センター独自の活動

まちづくり協議会への定例会に参加し、地域の関連機関とのネットワーク構築に努めている。

実績報告

1) 重点目標

実践報告（4 できた 3 まあできた 2 あまりできなかった 1 できなかった）

No	項目	No	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	適正な運営	①	施設設備、人員配置などの基準の確保	施設整備、人員配置は適正。	4
		②	職業倫理や法令遵守	虐待対応時の心得等は、職業倫理に基づいている。法令遵守を行い適正な業務を行っている。	4
		③	連携体制の確保	週1回の全体ミーティング及び必要時に応じて会議を行い、業務の連絡・相談体制を整えている。	4
		④	秘密保持及び個人情報の適切な取り扱い	体操教室等の個人情報を持ち出し等は帳票にて適切に返却された管理を行っている。また、管理者に声掛けを行い毎回確認している。	4
		⑤	緊急時・災害時対応	緊急対応や災害対応が必要そうな地域住民の把握等に努めている。今年度は、特に緊急対応等はなかった。	2
		⑥	自己評価・点検の実施による改善	前年度の自己評価を元に今年度の計画を立て改善が行えた。来年度の計画を策定し、更に改善を策定する。	3
2	サービスの質の向上	①	他地区包括支援センターとの交流の場を作り、意見交換を行う	本庁地区、那覇全体の包括支援センターと月1回程度の連絡会・管理者会を行い、意見交換及び業務の問題点の解決に努めている。	4

		②	外部研修への積極的な参加	コロナ禍にてオンライン研修の参加は行えた。今年度は中止となった研修が多い。	3
		③	気軽に意見交換や情報共有ができるように、できる限り多くの職員が参加できるミーティングを実施する	週1回の全体ミーティングは全職員参加なため、週1回程度の意見交換や情報提供を行えるようにしている。ミーティング以外にも随時、意見を言えるような環境に作りに努めている。	3
3	地域との連携	①	地域住民、自治会、まちづくり協議会、近隣学童との交流の機会を設ける	自治会、まちづくり協議会等の定期の会議に参加。近隣学童等はコロナ禍なため、交流なし。	3
		①	地域の困りごとから、サービスの創設へつなげる	コロナ禍特有の悩みを地域から抽出し、お散歩マップを作成。	4
		②	ボランティア団体の育成	コロナ禍により積極的な交流は避けていた為、育成できていない。	1
		①	地域住民に対し自助、共助の定着化周知活動、意識付け	お散歩マップを包括からは少しのお手伝いで、地域の力で作成できた地域があった。	4

2)個別目標

実践報告（4できた 3まあできた 2あまりできなかった 1できなかった）

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	主任ケアマネ	自立へ向けたケアマネジメントの定着化	ケアプランチェック等にて自立支援への促しを行えた。	3
2	社会福祉士	見守り体制の強化により、権利侵害や高齢者虐待の早期発見に努める	自治会等との連携体制を整え、早期に相談がしやすい関係性の構築を行えた。	4
3	保健師	地域の健康意識の向上、自主的な介護予防の周知	コロナ禍で介護予防教室の中断等があったが、チラシでの介護予防の周知を行え	3

			た。	
4	ケアプランナー	適切なサービスの調整、インフォーマルサービスの活用	主任ケアマネに適宜相談し、偏ったサービスの調整を避ける事が出来ている。インフォーマルサービスの活用の努めることが出来た。	3
5	事務	環境づくり等の専門職の支援	包括の業務の把握が出来ておらず、他専門職に助けられている。	2

3) 会議・委員会

No	項目	具体的な内容	評価の根拠	評価
1	三職種会議 (必要時に開催)	高齢者虐待、困難事例検討、包括業務方針、地域ケア会議方針決め等	必要時に開催し対応が行えた。会議以外に、常日頃相談できるようにし、会議の前段階で検討し会議で内容を詰める体制を整えている。	3
2	苦情処理委員会 (随時開催)	① 苦情に関する調査や解決策の検討を行う	苦情がなく、検討する場面がなかった。	1
		② 苦情とならないものであっても、意見等が寄せられた場合には適宜検討を行う	職員間では話し合うが、記録として残していない。	2